

特集

「川崎市を世界へ発信」

～川崎市名誉国際親善大使第一号就任～

【ライナー・キュッヒル氏】

キュッヒル氏はオーストリア出身ですが、夫人が川崎市出身ということもあり、大変な親日家です。ミューザ川崎シンフォニーホールでの演奏も今回の大使就任記念ヴァイオリン・リサイタルで4度目となります。

素晴らしかった ヴァイオリン・リサイタル



▲任命証授与

ライナー・キュッヒル氏の「川崎市名誉国際親善大使」就任を記念した、ヴァイオリン・リサイタルが7月9日(金)にミューザ川崎シンフォニーホールで開催されました。

ライナー・キュッヒル氏はウィーン・フィルの第一コンサートマスターとして40年間ヨーロッパを中心に演奏活動を展開。数々の名誉ある賞を獲得し、ウィーン国立音楽大学教授としても活躍中です。

当日は悪天候にも関わらず、大勢のファンや関係者が詰めかけ、キュッヒル氏が奏でる美しいヴァイオリンの調べにしばし酔い痴れました。

演奏曲目はベートーヴェン：「ヴァイオリン・ソナタ第5番」、サン＝サーンス：「序奏とロンド・カプリチオーソ」、ブルッフ：「スコットランド幻想曲」など。華麗なストラディヴァリ・ヴァイオリンの音色と繊細なテクニックに魅了されました。

演奏後も拍手が鳴りやまず、アンコールに応え、クライスラーやリストの名曲を4曲もサービスで演奏。「名誉国際親善大使就任記念」にふさわしい心に残るヴァイオリン・リサイタルになりました。



▲キュッヒル夫妻

鳴りやまない拍手!



◆キュッヒルさんから一言

音楽を通じて川崎市とウィーンの架け橋になるように努めて参ります。ミューザですでに3回のコンサートをさせていただきましたが、ここのコンサートホールの響きの良さには感動しました。

今までコンサートのための来川が主でしたが、これからは川崎の持つ魅力についてより多くのことを知ることになるでしょう。

紙面インタビューに、キュッヒルさんが漢字・ひらがな・カタカナを交え、自筆で回答をくださいました。

- 好きな植物は何ですか? →「バラの花」
- 日本の好きなところはどこですか? →「礼儀正しい文化と勤勉さ」
- 日本の好きな食べ物は何ですか? →「味の濃い物以外全ての食べ物」
- 特に好きな色は何ですか? →「赤」

川崎市滞在中のライナー・キュッヒルさんの印象

日本語がとてもお上手で、ユーモアに富み、且つ夫人を大切にいらっしゃる様子が素敵でした。和食が大好きで、食後には必ず甘い物を召し上がりました。

(取材・文：編集ボランティア 福地 直子)

川崎にゆかりがあり、海外を拠点に活躍し、その活動が川崎市の国際交流推進や文化振興につながっている方への称号として『川崎市名誉国際親善大使』が創設されました。その第一号として、アメリカ・ボルチモア市(姉妹都市)在住の医師「中澤弘氏」とウィーン・フィルハーモニー管弦楽団第一コンサートマスター「ライナー・キュッヒル氏」が就任しました。

【中澤 弘氏】

中澤氏は1979年のボルチモア市との姉妹都市提携に尽力され、ボルチモア・川崎姉妹都市委員会初代委員長に就任、現在も顧問として活躍しています。訪問団受入れや交換教員など、多くの市民が世話になりました。

今だからこそ ～BOYS BE AMBITIOUS!～

市民有志による「就任を祝う会」が行われ、お話を伺いました。

私は医師になってまもなく渡米しボルチモア市で開業しました。妻とともに3人の子とも6人の孫に恵まれました。

30年前に当時の市長から川崎市との姉妹都市提携のお話を聞き、草の根の市民交流を実現するため、ボルチモア・川崎姉妹都市委員会の初代委員長をお引き受けしました。その当時、両市の交換教員制度は本当に意義深く大切に思っ力を注ぎできました。今回、私のためになつかしい皆さんが会いにきてくださって、とても感激いたしました。

また、ボーイスカウトや野球の交流も盛んですし、これからはもっと相互の伝統的な文化交流もしたいと考えています。

委員会のメンバーは委員長をはじめ、皆ボランティアなので、思うようにはかどらないことも多いのが現実です。しかし、これからは若い人達とともに交流を発展させていくことが大切です、ぜひ協力したいと思います。



▲川崎市国際交流センターの木月庵で抹茶体験



▲懐かしい人々との出会いに喜びの笑顔



▲孫のクリスチャン君と

そして、これからを担う両市の若者達へのメッセージがあります。

“The sky is unlimited.”(同じ空の下、無限の可能性があります。)今だからこそ、『少年よ、大志をいだけ!』

朝のひとつき、国際交流センター「木月庵」にて長谷川宗江氏の心尽くしの抹茶のおもてなしをととても喜ばれ、そして、改めて日本の伝統文化のすばらしさを語られました。温かく気さくなお人柄に触れ、また、両市交流への情熱に感銘しました。ご多忙の中、ありがとうございました。ますますのご活躍を願っています。

(取材・文：編集ボランティア 相沢明子・青柳尚子)

いまだ青年のころぞし!